



子どもたちに生きる力を!

第1回 講演会 フィンランド教育に学ぶ!

開催日: 2006年11月12日 場所: とろしプラザ (取石) 主催: グリーン委員会 講師: 福田誠治 司会進行: 木戸あきら、寺島 誠



失敗から学んだ教育法

取石のとろしプラザでグリーン委員会主催にて、「子どもたちに生きる力を!」第一回講座「フィンランド教育に学ぶ!」の講演会を開催しました。講師は「競争やめたら学力世界」(朝日新聞社)の著者である福田誠治先生。競争教育をさらに加速させようとしている日本や東アジアとは180度異なり、フィンランドは競争をやめて2004年PISA(国際学力調査)で世界一になりました。

フィンランドは、偏差値は無い、授業中に遊んでも構わない、好きな座る、16歳までテストをしない、その子どものありのままを受け入れ、その子の個性を引き出す教育を実践している国です。国の経済が疲弊したとき競争主義を導入したことで失敗した教訓があったこと大抵着いたそうです。韓国は日本よりも競争主義ですから分かりやすい結果ですが、では、勉強をしないように見えるフィンランドがなぜ学力世界一なのでしょう?

両国で違う学力の概念

学力という概念の違いが根本的な問題を

子どもの力を信じて引き出す

PISA(国際学力調査)のある質問・・・「落書きについて、賛成派と反対派の主張があります。賛成派は、落書きは芸術だと言ひ、反対派は公共物に描くとはけしからんと言ひます。」質問は「この違法な落書きについてあなたはどちらに賛成ですか?」とあります。日本の子ども達は最も無回答が多かったそうです。理由は設問に「違法な」という形容詞に戸惑い無回答を選択したそうです。ではフィンランドの子ども達はどういう設問に「違法な」という言葉を入れることに設問者の意図が働いているが、それを無視すれば足りるので無回答はほぼゼロ。判断材料から「違法な」という形容詞を削除したということです。

フ

日本の子どもたちは、数式等知識を貼り付けることは得意でも、思考力や批判力を養ってきませんでした。生きる力が乏しいのはここに原因の一つがあるように思ひます。子どもを信じて引き出すことが人材を育てる基本だとするフィンランド教育には驚きました。そして、その

「競争やめたら学力世界1」の著者、福田誠治先生。有意義なお話を3時間にわたっていただきました。

高石市は小学校の1年生から3年生まで
少人数学級を採用しましょう!なぜ生きるのか?

なぜ勉強するのか?そしてなぜ、いじめがいけないのか?子ども自身が考える力をじっくり育てましょう。

